

平成20年度 部誌・OB&OG 会報



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法



防衛大学校少林寺拳法部

No. 3 5

HP アドレス : <http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

目 次

部 誌

- 1 ご挨拶
通信工学科 教授 高橋 信明
- 2 学生寄稿
5 4期 主将 坂口 雄幸
副将 荒川 紗恵
5 5期 平賀 大樹
重松 紀
5 6期 丹羽 和美
鈴木 大翔
- 3 平成21年度部員名簿
- 4 平成20年度活動成果
- 5 平成20年度各大会個人成績
- 6 平成21年度年間活動計画
- 7 少林寺拳法部第54期政権編成

奥平会報

- 1 会長挨拶
奥平会会長 17期 石渡 幹生
- 2 平成20年奥平会活動概要
- 3 平成21年度奥平会活動予定
- 4 期連絡網について
- 5 少林寺拳法自衛隊支部について
- 6 奥平会会則
- 7 奥平会員名簿

- 別紙第1 平成20年度奥平会活動成果報告
別紙第2 平成20年度奥平会総会議事録
別紙第3 平成20年度奥平会決算報告書
別紙第4 平成21年度奥平会活動計画
別紙第5 平成21年度奥平会予算計画
別紙第6 全自衛隊支部の活動紹介
別紙第7 防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則
別 冊 奥平会員名簿

ご挨拶

部長 高橋 信明

合 掌

年毎に活動の場が拡がり、ますます活躍の期待される防衛省自衛隊であります。防衛大学校少林寺拳法部 OB・OG 諸兄姉におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、現役学生諸君は前政権を送り出し、新たな年度を迎え、坂口主将率いる新政権の下、日々の稽古に精進していることと思います。

昨年、平成20年度も、学生諸君の奮闘努力により、良い年を送ることができました。部員数はこのところ伸び悩んでおりますが、それでも五十数名を数え、防大運動部の中では有数の大きさを誇っております。昨春5月4日に日本武道館にて開催されました第45回少林寺拳法関東学生大会では、3学年（54期）を中心としました伝統の12人による団体演武におきまして優良賞を獲得しました。さらに、男子段外の部で光宗・尾上学生（55期）が優秀賞を、運用法の部で主将、礒畑学生（53期）が最優秀賞を、男子単独演武有段の部で松本淳学生（53期）が敢闘賞を獲得しました。9月28日にやはり日本武道館で開催された第42回少林寺拳法全日本学生大会におきましては、定期試験開始前日にも拘らず、3学年（54期）を中心としました団体演武で五連覇を成し遂げました。これらによりまして、学校長から校友会褒賞が部と主将に贈られました。ついであるが少林寺拳法部の褒章受章は5年連続、通算22回目であり、防大一の受賞回数です。これは礒畑主将（53期）を中心としました現役学生諸君の日々の努力に加え、神田・頼富両先生や顧問のご指導・ご鞭撻及びOB・OG 諸兄姉を始めとします関係各位の多くの方々のご支援の賜物と、感謝申し上げます次第です。

昨年10月16日の交代式におきまして53期から54期へと政権が移りました。新年度に入り、現在坂口主将を中心とします54期政権は両先生及び濱田監督（27期）、永田副監督（49期）の指導の下、さらなる向上を目差し、全力で練習に取り組んでいるところです。本年も、部員一同、先輩からの伝統を守るべく日々修業に励む覚悟でありますので、これからも多くの方々の変わらぬ温かいご支援、ご鞭撻を賜わりたくお願い申し上げます。

結 手

愛し愛される防大少林寺拳法部へ

第54期 主将 坂口 雄幸

合掌

新政権発足から月日は流れ、5月となり57期（1年）も本格的に練習に参加し始めました。我々54期の運営する防大少林寺拳法部は54期から57期までの各期がそれぞれ大きな特徴を持っています。

54期。わずか9人。けれども留年なし。団体演武に学年・性別混合で出場。

55期。既に日本一を経験した者がいる一方で、新规定での団演初年度。

56期。経験者、女子、留学生とあらゆる要素を備え、その期待度は未知数。

57期。経験者多数、女子が2名。元気と笑顔はどの期にも負けない。

総勢51となりました現少林寺拳法部は、「誇り」という方針のもとで技術の向上・人格の成長の両方を達成すべく日々の練習に取り組んでいます。

さて、我々54期の運営方法をイタリアルネッサンス期の天才彫刻家であるミケランジェロと比べて考えてみます。ミケランジェロは彫刻の題材をどうやって決めるかをたずねられた際、「考えたこともない。素材が命じるままに彫るだけだ」と答えたそうです。つまり天才と呼ばれたこの芸術家は素材を一目するだけで、そこから引き出せる「美」をただちに発見しその「美」の姿を素材からただ取り出してやるように彫っただけということでした。そこには一般的な意味での試行錯誤という過程を窺うことはできません。そういった手法は極めて少数の選ばれた者のみに許されたものであり、我々凡人にはそのような方法をとることはできません。彫刻で素材の不要な部分を削り落とすのと同じように、仮に悪しき因習と思えるものでも一旦手放してしまったが最後、後でその大切さに気づいても取り戻すことは難しいものです。一方で、その価値を認め削らずにとっておくべき部分があるように、持続すべきと感じた伝統が実は部の繁栄を妨げている可能性もあります。そぎ落とす部分、残しておくべき部分、改善すべき部分、新たに取り入れるべき部分。これらの見極めは本当に難しく、その評価もすぐに下せるとは限りません。

我々にできることは時間と手間をかけ、芯となる方針は絶対としながらも、先生、OBや他大学など多くの人と人間関係を築き、そこから技術も人間性も積極的に取り入れることです。しかし何よりも大切なのは「誇り」です。自分が防衛大学校少林寺拳法部員であるという誇り。これこそが部の発展にとって最も強力な原動力となるでしょう。

半年が経ち政権運営も折り返し地点となりました54期政権ですが、常に少林寺拳法・部員を愛する心を忘れずに前へ進んでいく所存でありますので、部長、先生、監督、顧問、OB、OGの方々のますますのご指導、ご鞭撻のほどをどうかよろしく願いいたします。

結 手

防大少林寺拳法部における私の milestone

第54期 副将 荒川紗恵

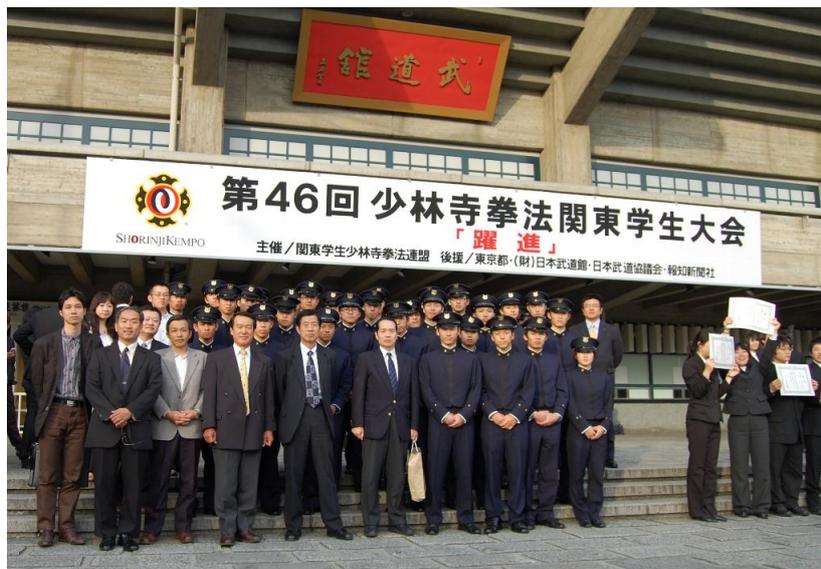
合掌

入校式から1ヶ月半が過ぎ、少しずつ夏が歩んでいるのを実感しています。と同時に、政権をとってからすでに半年以上が経過していることに焦りを感じています。

私は54期唯一の女子部員であり、一時期、全学年合わせても紅一点でした。男子部員と同じメニューを与えられ、時には最後まで達成し、時には途中で断念することもありました。3学年の団体演武の練習においては、まさに自分との戦いでした。5連覇というプレッシャーを感じながらも、その大変さを承知した上で、自ら団体演武に出たいと学年係に伝えました。しかし、団体演武の練習と今までの組演武の練習との違いは、予想以上に大きかったです。次から次へと演武を通し、体力の限界を超えて、精神力の限界への挑戦となりました。その練習の成果があったのか、全日本学生大会において5連覇を勝ち取ることができ、まもなく政権交代が行なわれ、私たち54期にたすきが渡されました。

そんな私は初めての女子副将となり、同時に1年係正も兼任しています。最初は教える難しさを感じていましたが、気がつけばどのように教えるかを考えることが楽しくなってきました。新入生勧誘では中心となって、女子を2名入れる、という一番掲げていた目標を達成できたので、これからも女子が入りやすいように工夫していきます。いずれ、「女子団体演武の部、最優秀、防衛大学校」というアナウンスを聞くのも夢ではないと思います。そして、いつか女子主将が生まれるように、引退する日まで後輩を全力で育てていきたいです。

結手



少林寺拳法を続けて・・・

第 55 期 平賀 大樹

合掌

私が少林寺拳法部に入部したのは、当時の政権である 5 2 期で 1 年係正をやっていて、私と同じ中隊であった小林さんの熱烈な勧誘とユーモア性に惹かれて、そして団体演武に憧れて入部しました。しかし入部してからは、ただ言われたことを一生懸命にやるだけで、楽しいとか充実しているとか、そんな気持ちになることはありませんでした。結局、1 年目はたいした目標も結果もなく、政権が 5 3 期に変わっていました。

2 学年になって後輩ができ、同期や先輩方とも仲良くなり、少林寺拳法に対する姿勢が変わりました。また団体演武への憧れが今まではただかっこいいと思っていただけのものが、同期が一丸となって一つの目標に打ち込む姿、そこにどんな障害があっても日本一を獲り続け、見ている人を感動させる演武をしてきた先輩方を羨ましいと思うようになりました。だからこそ何をすれば良くなるか、楽しくできるか、大会で勝つことができるかと考えるようになりました。しかしこの年、私はいつも悔しい思いをしていました。関東学生大会では補欠、全日本学生大会では男女組演武初段の部で予選敗退という苦い結果でした。今まで生きてきた中で、これほど熱心に打ち込んで結果が出なかったのは初めてでした。だからこそ次の関東学生大会では団体演武で最優秀賞を絶対に獲ろう、と心に誓いました。

政権が 5 4 期に変わり、部のスタンスが大きく変わり、自主性が問われるようになりました。私は自分自身の誓いを果たすために様々なことに挑戦しました。しかしちょっとした歯車の噛み違いから、関東学生大会の出場を断念し、結果も入賞できずに幕を閉じました。どこで何が狂ったか気づいたのは大会の後でした。引退していった先輩方にはお前が部を盛り上げろと言われていました。もし自分が最後までそうし続けていたら結果も変わっていたのではないかと最近をよく考えさせられます。

この部のすごいところは一人一人に適した役割があって、誰か一人でも欠けると機能しなくなるが、全員が揃うと絶大な力を発揮するところであり、だからこそ今まで見てきた団体演武には見ている人を感動させる力があったのだと思います。今回の最も大きな敗因は欠員が多く出過ぎたことにあると思います。次の全日本学生大会では誰一人欠けることなく参戦し、必ず日本一の座を掴み取ります。

結手

防大少林寺拳法部と私

第55期 重松 紀

合掌

今回、私が少林寺拳法部の一員としてこれまで学びとってきたことを振り返ってみようと思います。約2年前、大学に入ったら何か武道系のことをやりたいと高校の頃から考えていた私は、防衛大学校でいくつかの武道系の校友会の中から選ぶようしていました。その中で、少林寺拳法部は、部員が皆楽しそうに部活をやっており、日本一を取ることができるというのも魅力的でした。また、少林寺拳法は、柔法や剛法そして整法から成り立っているということも私が少林寺拳法を始めようと思った理由の一つです。更には、自己確立や自他共楽などの考え方も共感できるものがあり、合理的に系統だてられていると感じました。

さて、私はこの約2年間で多くの体験をしてきました。当初、運動にはほとんど縁がなかった私は、基本的なことさえなかなか思うようにはいきませんでした。しかし、当時の52期政権の1年係の方々の丁寧なご指導のおかげで、少しずつではありますが、成長できたのではないかと思います。そして、迎えた全日本学生大会。恐縮ではありましたが、組演武の男子段外の部に出場させて頂きました。目標はもちろん最優秀賞でありましたが、結果は敢闘賞でした。その時の悔しさから、その後の練習により集中するようになったと感じています。

これまで、きついことや苦しいことがたくさんありました。元々、体力がある方ではないので、ランニングや懸垂そしてシーズンの練習において人生の中であれ程つらい思いをしたことはありません。部活をやめようと思ったことも一度ではありません。しかし、私の周りにはかけがえのない同期がいました。同期の皆が励ましてくれ、相談にのってくれたからこそ、きつくても続けることができました。これからも、少林寺拳法を通じて出会った大切な仲間との絆を大事にしていきたいと思っています。

結手



「少林寺拳法との出会い」

第 56 期 丹羽 和美

合掌

私の少林寺拳法との出会いは、よくあるようなものでした。まず、私が少林寺拳法と出会ったのは、大学に入ってからです。大学に入るまで少林寺拳法の名前すら知りませんでした。また、私が大学でしたいと思っていた部活動は合気道でした。しかし、その考えを変えたのが少林寺拳法の演武でした。最初に見たのは組演武で、主将と副将がやってくれました。その時の私には、何の技をやっているのか全く分からなかったのですが、ただすごいということは分かりました。その演武に惚れてしまいました。こんな演武を自分もしてみたいと思いました。その時はそのことしか考えにありませんでした。実際入部してみると、やはり甘いものではなく、楽しいと思うことよりもきついと思うことの方が多くあります。しかし少林寺拳法を辞めないのは、最初に見た演武が忘れられないからです。あの演武に少しでも近づきたい。この思いを胸にこれからも少林寺拳法を続けていきたいです。

結手

大会を通して学んだこと

第 56 期 鈴木 大翔

合掌

私にとって昨年の全日本学生大会はとても意味あるものでした。

入部した時から目標を日本一になることと決めていた私にとり、この大会は、大きなチャンスでした。大会に向けての練習は夏の合宿から開始され、練習は想像を絶するものでした。1日に何十回と演武を通し、体中があざだらけになり、何度か部活を辞めようかと考えることもありましたが、そのたびに組演武のペアと一緒に頑張っている佐藤の姿を見て励まされ、日本一になるという自分の目標を思い起こして厳しい練習を耐え抜き、かなり実力をあげることができました。しかし、試合結果は予選落ち、悔しくて仕方ありませんでした。私が悔しがっている一方で、防衛大学校団体演武は優勝し、全国5連覇の快挙を成し遂げました。

私はこの大会で日本一という目標の大きさを思い知らされたのと同時に、自分の所属している部のすごさを実感しました。団体演武を見て思ったことは、やはり、演武は一人でできるものではないということです。仲間と高め合うからこそこれだけの演武ができるようになるのだと思います。私も組演武で相手がいたからこそ実力を上げることができました。この大会を通して、仲間と高め合う事の大切さを学びました。

いい仲間と共に練習できることに感謝して、今私は日本一の目標に向かって練習に打ち込んでいます。

結手

平成 2 1 年度部員名簿

(平成 2 1 年 5 月 1 日現在)

期別	小隊	教務班	要員	フリガナ 氏名	役職等
5 3	112	土木(14)	陸	フジサキ シュウタロウ 藤崎 脩太郎	
	242	電気(7)	海	トミタ ダイスケ 富田 大助	
5 4	142	国関(3)	海	コブネ ノリツグ 小舟 乗継	三年係(正) 渉外
	242	電気(7)	陸	アラカワ サエ 荒川 紗恵 W	副将 兼 一年係(正)
	242	情報(9)	空	イサ ノブアキ 伊佐 信晃	統制長
	242	公共(2)	陸	サカグチ タカユキ 坂口 雄幸	主将
	241	応物(4)	陸	ハマノ マサシ 濱野 雅史	会計 庶務
	242	電気(7)	陸	ヤシマ マサル 八島 勝	庶務 本山 安全 一年係
	331	機械(11)	空	セト ヨウスケ 瀬戸 陽介	主務
	311	応化(5)	海	ノエ フミト 野添 文登	二年係(正)
	432	機材(10)	陸	ムラタ シュンイチロウ 村田 瞬 一郎	道場長 三年係(副)
5 5	121	応化(5)	陸	ウエノ タツノリ 植野 辰徳	
	141	応化(5)	陸	サワヤ タツヤ 澤谷 竜也	
	132	人文(1)	空	シゲマツ オサム 重松 紀	
	122	応化(5)	陸	ヒラガ タイキ 平賀 大樹	
	122	応化(5)	陸	アシダ ユウジ 芦田 勇次	

	112	電気(7)	陸	ナカオカ 中岡	ダイスケ 大輔	
	122	人文(1)	陸	ヤサキ 矢崎	アツシ 敦	
	342	電気(7)	空	ヤマガタ 山縣	ヨシヒサ 宜久	
	212	通信(8)	陸	オノウエ 尾上	シンイチ 真一	
	242	土木(14)	陸	コバヤシ 小林	ギ コウ 棋孝	
	312	公共(2)	陸	ムラタ 村田	マリ ナ 茉莉那 W	
	322	公共(2)	陸	カワカミ 川上	マサアキ 政晃	
	412	情報(9)	陸	フジイ 藤井	リョウヘイ 涼平	
	411	機械(11)	陸	ミツムネ 光宗	ハヤト 勇人	
	432	国関(3)	海	フジタ 藤田	タカヒト 孝仁	
56	322	電気(7)	陸	セキカフ 関川	タツヤ 達弥	
	131	航空(13)	空	キンガミ 岸上	ヨシタカ 吉孝	
	121	機シス(12)	陸	キタムラ 北村	オサム 修	
	231	土木(14)	陸	ホック ウイチエツ トラー		
	432	公共(2)	陸	サトウ 佐藤	コウヘイ 康平	
	332	電気(7)	海	スズキ 鈴木	ダイショウ 大翔	
	441	応物(4)	陸	ウチキ 内木	シュウヘイ 修平	
	342	応科(5)	陸	セキド 関戸	カンショウ 貫生	

	312	電気(7)	陸	ドン トック トアン	
	132	航空(13)	空	ナンリ ヨウスケ 南里 陽介	
	121	航空(13)	陸	ニシダ ヒロシ 西田 浩士	
	142	航空(13)	空	ニワ カズミ 丹羽 和美 W	
	131	機シス(12)	海	ウエノ ヨシマサ 上野 嘉優	
5 7	113	共通(11)	共通	アサウ ユウタ 朝鶴 悠太	
	123	共通(12)	共通	アリムラ マサキ 有村 匡城	
	123	共通(12)	共通	フジモト ソウイチロウ 藤本 宗一郎	
	133	共通(13)	共通	タナカ ショウタ 田中 翔太	
	133	共通(13)	共通	タカノ ナオキ 高野 直紀	
	143	共通(10)	共通	タケムラ シゲト 竹村 滋人	
	143	共通(10)	共通	モリミツ アキヒロ 盛満 昭彦	
	143	共通(10)	共通	ナカガワ エリカ 中川 絵莉夏 W	
	213	共通(14)	共通	スノウチ リュウタロウ 則内 龍太郎	
	243	共通(16)	共通	シゲマツ ツバサ 重松 翼	
	333	共通(5)	共通	ゴトウ カズマサ 後藤 和正	
	333	共通(5)	共通	リュウ シンノスケ 笠 慎之介	
	413	共通(7)	共通	エンドウ マコト 遠藤 真琴 W	
	433	共通(3)	共通	マンザキ リョウイチ 松崎 諒一	

* Wは女子部員の意

平成 2 0 年度活動成果

日 時	行 事	場 所	成 績
4 月 19 日	昭和薬科大合同練習会	防 衛 大	
5 月 4 日	第 45 回関東学生大会	日本武道館	団体演武；優良賞 男子段外；優秀賞 運用法；最優秀 男子単独有段；敢闘賞
5 月 17 日	新入生歓迎行事	ソレイユの丘	
5 月 18 日	早慶防合同練習	防 衛 大	
6 月 29 日	昇 段 審 査	関東学院高校	
8 月 19 日 ～22 日	夏 合 宿	防 衛 大	
9 月 28 日	第 42 回全日本学生大会	日 本 武 道 館	団体演武；最優秀
10 月 12 日	横須賀・三浦ブロック大会	県立福祉大学	
11 月 8 日	防衛大学校開校記念祭	防 衛 大	
1 月 6 日～ 9 日	寒 稽 古	防 衛 大	
1 月 18 日	三浦ブロック合同練習会	防 衛 大	
1 月 31 日	全自衛隊少林寺拳法大会	海上自衛隊厚木基地	※ 次頁参照
2 月 8 日	横須賀三浦ブロック 新春の集い	横須賀セントラル ホテル	
2 月 14 日	OB 杯、納会	防衛大学校、さいか屋	
3 月 23 日 ～26 日	春 合 宿	防 衛 大	

少林寺拳法部 2 0 年度顧問団編成

部 長	通信工学 教授 高橋信朗	顧 問	応用物理 講 師 齋藤文一
監 督	防衛学 2 陸佐 濱田 秀	顧 問	通信工学 助 教 和田 篤
顧 問	防衛学 教授 加藤三千夫	顧 問	研究科 2 陸尉 西川尚紀
顧 問	通信工学 教授 宇都宮俊男	顧 問	通信工学 事 務 勝 恵子
顧 問	防衛学 2 海佐 山下 啓治	顧 問	通信工学 事務官 波多野幸子
顧 問	機能材料 准教授 有賀 敦	顧 問	事務管理室事務官 宮坂万須美
顧 問	通信工学 准教授 西田 健		

平成20年度各大会個人成績

関東学生大会(平成20年5月4日：日本武道館)

団体演武の部	優良賞	53期	宮川真一	宅島宏幸
			宮田憲一郎	石丸純
		54期	坂口雄幸	荒川紗恵
			村田瞬一郎	小舟乗継
			伊佐信晃	濱野雅史
			野添文登	八島勝
男子段外の部	優秀賞	55期	光宗勇人	尾上真一
運用法の部	最優秀	53期	磯畑良太	
男子単独有段	敢闘賞	53期	松本淳	

全日本学生大会(平成20年9月28日：日本武道館)

団体演武の部	最優秀	53期	児玉明	宮田憲一郎
			香川将太	
		54期	坂口雄幸	荒川紗恵
			伊佐信晃	小舟乗継
			野添文登	濱野雅史
			八島勝	
		55期	尾上真一	光宗勇人

全自衛隊少林寺大会(平成21年1月31日：海上自衛隊厚木基地)

段外単独の部	最優秀	55期	ドン	
学生段外組演の部	最優秀	55期	南里陽介	北村修
学生有段組演の部	最優秀	56期	佐藤康平	鈴木大翔
	優秀賞	54期	坂口雄幸	小舟乗継
	優良賞	55期	尾上真一	
		54期	野添文登	

平成 2 1 年度年間活動計画（一部実績含む）

期 間	行 事	場 所	備 考
4 月中	全力勧誘期間		目標：30名以上
5 月 4 日	第 46 回関東学生大会	日本武道館	男子段外単演：優秀賞
5 月 16 日	新入部員歓迎行事	マザー牧場	新入部員 14 名
5 月 30 日	少工校との合同練習	防衛大	
6 月 13 日	昇級審査		
6 月 14 日	早慶防合同練習	防衛大	東海大学・立教大学・青山学院大学・明治学院大学・上智大学も参加
6 月 28 日	昇段審査	関東学院高校	
7 月 30 日～ 8 月 1 日	夏合宿	埼玉県秩父地区	
8 月 18 日～ 21 日	本山合宿	香川県多度津	3 年及び 4 年生、監督参加
11 月 7 日～ 8 日	開校祭	防衛大	演武披露
11 月 15 日	第 43 回全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀 2 段・3 人掛け最優秀 最優秀大学
時期未定	全自衛隊大会	未定	
時期未定	幹部交代	防衛大	
1 月中	寒稽古	防衛大	
2 月中	OB 杯演武大会・納会 OB 総会	防衛大	
3 月下旬	春合宿	防衛大	

* 各月一回を基準に神田・頼富先生の指導受日（旧呼称：師範日）を予定



新入生歓迎会（マザー牧場）

少林寺拳法部第 5 4 期政権編成

役 職	氏 名	所 属	要員・専攻
主 将	坂口 雄幸	2 4 2	陸上・公共
副 将	荒川 紗恵	2 4 2	陸上・電気
統制長	伊佐 信晃	2 4 2	航空・情報
道場長	村田 瞬一郎	4 3 2	陸上・機材
主 務	瀬戸 陽介	3 3 1	航空・機械
会 計	濱野 雅史	2 4 1	陸上・応物
安 全	八島 勝	2 4 2	陸上・電気
3年係正	小舟 乗継	1 4 2	海上・国関
3年係副	村田 瞬一郎	4 3 2	陸上・機材
2年係正	野添 文登	3 1 1	海上・応化
2年係副	濱野 雅史	2 4 1	陸上・応物
	瀬戸 陽介	3 3 1	航空・機械
1年係正	荒川 紗恵	2 4 2	陸上・電気
1年係副	八島 勝	2 4 2	陸上・電気
庶務 (OB・師範)	八島 勝	2 4 2	陸上・電気
	濱野 雅史	2 4 1	陸上・応物
本山	八島 勝	2 4 2	陸上・電気
渉外・学連	坂口 雄幸	2 4 2	陸上・公共
	小舟 乗継	1 4 2	海上・国関
	村田 瞬一郎	4 3 2	陸上・機材
乱捕り	伊佐 信晃	2 4 2	航空・情報
写真 ホームページ	村田 瞬一郎	4 3 2	陸上・機材

少林寺拳法部 2 1 年度顧問団編成

部 長	通信工学 教授 高橋信朗	顧 問	通信工学 准教授 西田 健
監 督	防衛学 2陸佐 濱田 秀	顧 問	応用物理 講 師 齋藤文一
副監督	研究科 2陸尉 永田忠義	顧 問	通信工学 助 教 和田 篤
顧 問	防衛学 教授 加藤三千夫	顧 問	研究科 2陸尉 西川尚紀
顧 問	通信工学 教授 宇都宮俊男	顧 問	通信工学 事 務 勝 恵子
顧 問	機能材料 准教授 有賀 敦	顧 問	研究科係 事務官 波多野幸子

奥平会報



※ 2009年2月14日に実施されたOB杯における現役・顧問団と奥平会員の面々

会長挨拶

奥平会会長 石渡 幹生

合 掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、20年度の母校少林寺拳法部は、私の心配を見事に跳ね返す立派な結果を出してくれました。第1に関東大会では不本意な結果となった団体演武の部門で、全日本大会では見事最優秀を獲得しました。主力の3年生が少なく、前期定期試験準備の最中であったにも拘わらず、5連覇の偉業達成は、清しい感動を覚えずにはおれません。そして、厚木基地で行われた自衛隊大会では、各部門において隊員の模範となるような演武を披露してくれました。新しい指導部には女性の副将が就任し、57期1年生を一人でも多く獲得して、部をさらに活性化させてくれるものと期待しております。

奥平会につきましては、ほぼ例年並の事業を表面上は淡々と実施しておりますが、会員の皆様には、次の2点についてご理解、ご協力をお願い致します。

- ① 年1回の総会を、2月のOB杯争奪戦に併せて、母校の体育館で開催しておりますが、毎年出席者（規約上15名以上）を確保するので苦勞しているのが実情であり、運営担当者の負担軽減を図れるよう、20年度総会にて規約の改正を行いました。
- ② 事務局、学生支援などが、実質1名のOB（27期 濱田 秀）に頼っており、多大な苦勞をかけております。OBの中から指導教官、防衛学教官を確保すべくご協力願いたい。

小原台は、生活や、勤務した時代によって人それぞれイメージが異なりますが、逐年素晴らしく整備されております。現在は学生舎の立て替えが順次行われております。機会をみつけての母校訪問はいかがでしょうか。今後とも皆様方のご協力を得て奥平会の運営にあたっていきたいと思います。

会員並びにご家族皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

結 手

平成20年度奥平会活動概要

1 現役部員に対する支援

日常における学生に対する指導をおこなうとともに、夏季合宿、関東・全日本学生大会等への支援を実施致しました。細部は別紙第1「平成20年度奥平会活動成果報告」のとおりです。

特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、OB・OGの方々のご多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。来年度につきましても、できる限り大会等の予定を御連絡いたしますので、応援・ご支援のほどよろしく申し上げます。

2 総会の実施

平成21年2月14日、防大において学生による「OB杯演武・乱捕り大会」に併せて平成20年度奥平会総会を開催しました。総会には規定会員に満つる参集をしていただきました。

総会では、活動報告及び会計報告を行ったほか、今後の奥平会活動等について発議し、熱心に討議が行なわれました。細部討議内容につきましては別紙第2をご参照ください。

出席いただいた会員の方々、誠にありがとうございました。

3 平成20年度会計報告

別紙第3「平成20年度奥平会決算報告書」をご参照ください。

平成21年度奥平会活動予定

1 平成21年度奥平会活動内容

別紙第4「平成21年度奥平会活動計画」をご参照ください。

2 平成21年度奥平会予算

別紙第5「平成21年度奥平会予算計画」をご参照ください。

3 平成21年度奥平会本部

役 職	期 別	氏 名	連 絡 先
会長	17F	石渡 幹生	(退職)
副会長 (市ヶ谷等)	17A	鈴木 陽	(退職)
副会長 (市ヶ谷等)	24A	佐藤 秀幸	中部航空警戒管制団 副司令 8-43-2251
副会長 兼 総括幹事・庶務	27A	濱田 秀	防衛大学校 防衛学 8-40-3853
庶務 (副)・広報	50A	永田 忠義	防衛大学校 研究科 8-40-3629
会計監査委員	20A	半澤 康司	(退職)
会 計	27A	濱田 秀	防衛大学校 防衛学 8-40-3853

期連絡網について

1 趣 旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。
特に近年、退職者が多数おられて、会員の掌握が難しくなりつつある現状を踏まえ、他
校友会会員の扱い等も参考にしつつ、掌握に努める。

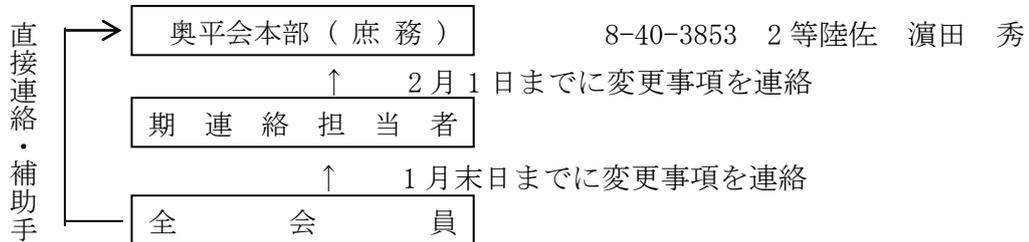
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおく。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年1月末日までに同期生の連絡担当
者に連絡し、変更事項を告げる（直接防衛大学校庶務に連絡することも可能）。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年2月1日までに奥平会本部（防大
庶務）に連絡する。期担当者の変更（交代・転出）についても防大庶務に連絡する。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通
じて奥平会本部に連絡するものとする。この際同窓会本部との連携に留意する。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を期毎指名し、申し送るものとする（再任を妨げない）。

4 期連絡網



5 期連絡担当者（21.4.1現在）

10	10	調整中		25N	内山 哲也	目黒	40A	上野 洋介	練馬
11	11A	勝野 建朗	退職	26F	池島 暢也	入間	41A	後藤 仁志	習志野
12	12A	衛藤 利治	退職	27F	堀田 隆治	三沢	42A	古賀 信之	目黒
13	13A	調整中		28A	湯浅 悟郎	市ヶ谷	43A	廣瀬 繁	市ヶ谷
14	14A	清水 重周	退職	29A	甲斐 正人	健軍	44A	渡邊 俊明	川内
15	15A	上杉 和壽	退職	30A	福田 洋司	十条	45A	八木 新	旭川
16	16A	富本 啓一	退職	31A	吉竹 辰明	市ヶ谷	46A	菊池 裕紀	守山
17	17A	中尾 吉孝	退職	32A	福重 毅尚	市ヶ谷	47A	矢野 健一	弘前
18	18F	笠原 久	退職	33N	町島 敏幸	出向	48A	対比地貴之	松本
19	19A	屋久 俊郎	退職	34A	松永 康則	朝霞	49A	西川 尚紀	防大
20	20A	小林 実	退職	35A	戒田 重雄	市ヶ谷	50N	鳥居 悠希	小月
21	21A	湖崎 隆	札幌	36A	藤岡 忠生	市ヶ谷	51A	加藤 僚	青森
22	22A	松村 利宏	古河	37N	高取 哲郎	市ヶ谷	52N	上田 佳裕	江田島
23	23A	日高 政広	札幌	38A	奇藤 浩	秋田	53A	磯畑 良太	久留米
24	24F	中館 利光	市ヶ谷	39A	中村公多朗	霞ヶ浦			

連 絡 事 項

1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気付きの点がございましたら期連絡担当者又は防大奥平会本部庶務まで御連絡ください。

近年、部誌のデータが更新されない等の理由で、送付した部誌が戻ってきまうケースが多く見られます。このため、今年は努めて期担当連絡者と連絡を取るよう努めましたが、連絡がなかった、あるいは連絡がつかなかった期につきましては、昨年度のデータを基に作成しております。

2 期連絡網について

期連絡網について上記のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等がありましたら期連絡担当者まで御連絡下さい。

尚、期連絡担当者様の所属が変更になっている場合、部誌が届いていない恐れがあります。その際は、お手数ですが、同期の方またはお近くの方から期連絡担当者様に本部へご連絡いただけるようお願い申し上げます。今後、最盛期の勢力であった期が逐次退職して行き、連絡がつきにくくなって行くことが考えられます。期連絡網を活用してゆけるよう努力致しますので、ご協力の方どうかよろしくようお願い申し上げます。

3 メール化のご提案

部誌作成業務は、学生と防大勤務者の共同で手作り作業により、営々と行われてまいりました。一方で昨今の IT 技術の発達に鑑み、これを利用するならば、部誌作成業務の省力・節約化、配布の迅速確実化が望めると考えることが出来ます。近い将来一部でもこれを実現化することも重要だと思われます。この提案に関する意見のある方は、奥平会本部庶務 (hamashu7@nda.ac.jp) までメール連絡下さい。

4 本部連絡先

防衛大学校防衛学教育学群国防論教育室 2等陸佐 濱田 秀
専用線 8-40-3853
局 線 046-841-3810 (内 3853)
e-mail hamashu7@nda.ac.jp

5 その他

- (1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。
- (2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績、知りうる範囲で会員様の慶弔等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。

少林寺拳法全自衛隊支部について

自衛隊員の活動を容易にし、自衛隊の中での少林寺拳法の活動を活発化する目的で、全自衛隊連盟の一支部として、全自衛隊支部が設立されております。

設立の趣旨としましては、各拳士が全国どこの自衛隊勤務地においても少林寺拳法の練習ができるように設立されたものであり、自衛隊の少林寺拳法の活発化を図るものです。

現在、空自の出口 1 等空佐（防大24期主将）が支部長・事務局事務担当者として、相良達也 2 等海佐（防大26期）、米山多佳志 2 等陸佐（防大27期）が会報担当者として、この業務に携わっております。**詳しくは別紙 6 をご覧下さい。**

奥平会会則

20 年度総会では、昨年に引き続き、総会の参集人員のありかたや、OB 顧問が防衛大学校に所在しなくなった場合について等、「奥平会会則」にかかわる事項について問題提起がなされました。**20 総会結果の掲載（15 条 3 項）**と、今後の検討に資する意味で奥平会会則を掲載致しました（別紙 7）。

奥平会員名簿

1 奥平会名誉会員名簿

別紙第 8 「奥平会名誉会員名簿」をご覧ください。

2 奥平会員名簿

別冊「奥平会員名簿」をご覧ください。この際、新たに期連絡網等で連絡・判明した会員の所属変更等は●印で記載しております。

別紙第 1

平成 20 年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 各種活動に対し、金銭的支援及び防大所属会員等による人的支援を実施した。
- (2) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会、第 56 回開校祭、自衛隊大会には近隣の会員からの激励を賜るとともに、所要の予算的事項に関し、金銭的支援を実施した。
- (3) OB 交流等を通じて、昨年度に引き続き合同練習対象校を拡大した。
- (4) 所要に応じ、OB による技術指導を実施した。

2 神奈川県連活動

月例の会議に参加（高取）

3 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（月 1 回；濱田）
- (2) 合同練習参加（濱田）
- (3) ブロック大会（10 月 12 日）諸準備の実施（濱田）
- (4) 新春の集い（2 月 8 日）に参加（濱田）

4 OB連合会活動参加

- (1) 総会・懇親会への参加（於：昭和大学；6 月 15 日；濱田・米山）
- (2) 合同練習会・懇親会への参加（於：国際武道大学；11 月；濱田）

5 校内活動

- (1) 少林寺拳法部顧問会議の開催
- (2) 政権・OB合同会議（1 ヶ月に 1 回、必ず実施）
- (3) ホームページの作成及び運営指導（行事等の機微に応じた広報活動を指導）
- (4) OB杯に引き続く総会の開催（2 月 14 日）

別紙第 2

平成 20 年度奥平会総会議事録

1 学生に対する指導の着眼点

- (1) 関東学生OB連合会及び少林寺拳法連盟横須賀・三浦ブロック主催の合同練習等への積極的参加
- (2) 大会等を通じて懇意になった大学との合同練習の積極的实施

2 平成 20 年度奥平会活動報告

資料（別紙第 1）のとおり報告し、質問等の特記事項なし。

3 平成 20 年度奥平会会計報告

- ・ 資料（別紙第 3）のとおり報告し、承認された。

4 平成 21 年度奥平会活動計画

- ・ 報告（別紙第 4）のとおり承認された。
- ・ 21 年度は防大勤務OBが 4 名であり、会員諸氏の一層の支援を依頼した。
- ・ 細部運営要領等は後述。

5 平成21年度予算計画

- ・報告（別紙第5）のとおり承認された。

6 今後の運営について

恒常業務の他、奥平会・防大勤務者に関する事項に関し活発に議論が交わされた。決定事項及び自由意見に関しては以下の通り。

(1) 監督、顧問業務

濱田会員が実施し、学生の技術指導等は近隣（OB、三浦ブロック等）からの支援をもらう。

(2) 幹事業務

ア 総括業務

濱田（#27）会員

イ 庶務業務

- ・三浦ブロックー濱田（#27）会員
- ・神奈川県連ー高取（#37）会員
- ・全自衛隊ー米山（#27）会員
- ・学生OB連盟ー米山（#27）会員

ウ 会計業務

濱田（#27）会員

エ 広報業務

濱田（#27）会員

(3) 会計監査

半澤（#20）会員

7 その他

(1) 部旗の作成について

部旗については、米山会員が本部職員に連絡してデザインについての規制を確認し、本年度中に作成するよう努力する。この際、学生にデザインを一任し、作成することとする。（部旗用の代金13万円は学生が保管している。贈 菅野先生並びに奥平会一同と記載させる。）

(2) 現況分析（奥平会を取り巻く組織資源について（「人・物・金」）

現在奥平会員の退職（10期生）が開始されてから約10年、21年度は21期（1佐）が該当期となっている。

20期代は奥平会員数のピークを迎えた期であり、10年以内にOB数は減少の一途を

たどることとなる。一方で、40期代は4名で政権を担った期もあり、減少の度はさらに増すことが予想される。このような状況を鑑み、これからの奥平会総会は、組織資源である「ヒト・モノ・カネ」に関して検討を続けていかなければならない。

以上のような全般状況の中であって、平成21年度は40期代の小隊指導官、中隊指導官要員が補充の対象となっているが、OB顧問の増加はあまり期待できそうもないし、今後もこの状況は慢性的に続くであろう。つまり、本年度のような3~4人のOB顧問（職員1~2名、研究科1~2名）で、しかも往年のような若い指導官がいない状況下、防大地区は奥平会事務、及び部外（財団系統・全自・OB連合・三浦ブロック等）との調整、学生の掌握等に努めなければならない状況にある。

現在、部員が10~15名の人員を確保できる兆しがあることから、「人・モノ・カネ」のうち、奥平会予算については一昨年度から小康状態に入った（根拠；奥平会年間支出約70万円、学生の終身会費は学生手当の半額なので、1コ学年の人数は白紙的に14~15名必要）。だが、この現況に甘んずることなく今後も現役学生と協力して新入部員勧誘に努めなければならない。

(3) 奥平会会則の改正（総会の参集範囲）について

一方で、昨年度からの懸案事項である総会人員についても、そろそろ検討しなければならなくなってきたという認識にある。創立当初の15人確保が非常に難しくなってきた。

以下に、会則改正案を挙げる。

改正を検討するにあたっての前提：会長、副会長、学校勤務者（監督・顧問・会計含み、Maxで5名程度と仮置き）、近傍勤務者2~3名（目黒など）

【改正案】

3項について

① 「総会は、会員15名をもって成立する。」→10名をもって成立・・・〇-1

利点：現実に即する

欠点：公平さを現行規定より欠く、ということは否めない。

② 「総会は、会員15名をもって成立する。但し（5名）をこえない範囲で委任状による手続きによることを妨げない。」・・・・・・・・・・・・・・・・・・〇-2

利点：人集めに対する労力が軽減される。

欠点：一部の者のみによる意志決定がなされてしまう可能性がある。

※ 採用 〇-2

対策：濫用が予想されないように委任状の枠組みを作っておく。これまで同様15名の参集に努力するも、5人以内の委任状の存在により、総会時の準備量力の軽減が図れる。

【 現行 】

(総会)

第15条 総会は、原則として年1回会長が召集する。但し、必要と認めるときは、臨時に召集することができる。

- 2 会長は、総会の召集にあたり、副会長に委任することができる。
- 3 総会は、会員15名をもって成立する。
- 4 総会の議長は、会長がこれに充たるものとする。
- 5 総会の議事は、出席した会員のうち過半数以上の賛同により、成立するものとする。

(4) OB顧問の選定・調整について

総会で、OB顧問の推挙を含め、現実的な話をしなければならない「時代」に入ったのではないか。また、現在庶務が陸（濱田）なので、海・空の人材情報に疎い部分がある。それぞれの立場で協力が必要である。

(5) 部誌のメール化について

引き続き検討する。

(6) 慶弔（参考）

引き続き検討する。

(7) 自衛隊全自支部について（紹介）

卒業後に少林寺を継続する手段として説明し各人の精進、修養の一助とする。

(8) 自由意見交換の概要（問題提起事項については上記の結果となった）

ア 部員勧誘について

プロモーションビデオ等も作成し、女子を含め積極的に勧誘することが必要ではないか。

イ 会則の改正案

- (ア) 総会場所を市ヶ谷には出来ないか。
- (イ) 委任状は物理的に来られない人にとっては良いものである。
- (ウ) 委任状の枠は必要ないのではないか。

ウ OB杯をOB参加型にしてみてもどうか

エ 連絡網が一部機能していない

総会の開催連絡の明確化（会報・部誌・HP）、卒業時にメールアドレスのリスト化をする等

以上の提案について選択的に検討し、今後議論を深めることとする。直ちに可能なものは着手する。

平成20年度奥平会決算報告書

1 20年度収支について

収 入		支 出	
前年度繰越金	¥1,844,014	各種大会支援	¥160,000
OB会費(52期16名)	¥810,000	合宿支援	¥15,000
		学生活動支援	¥60,000
利息	¥23,261	技術向上支援	¥200,000
防具代	¥100,000	部誌発行関連	¥176,875
小計	¥933,261	関東OB連合会関連	¥23,120
総計	¥2,777,275	三浦ブロック関連	¥36,000
		OB杯・慶事等	¥20,166
		合計	¥691,161
残高(収入-支出)			¥2,086,114

2 防具代の出所・経緯について

防具代の項目がございますが、平成15年度に本山から防具の改良・制式化(昇級・昇段・試合等にも使用を統制)が指示された際、急遽防具を購入した経緯があつて、奥平会から一時金50万円を貸し出しすることが、当時の総会で決定されました。それ以降学生は年度毎に10万円ずつ部費から返金をしております。収入の「防具代」は、この10万円を示しております。

3 会計監査報告書

付紙の通り。

平成 20 年度奥平会活動計画

1 活動内容

- (1) 部活動支援
金銭的・人的支援を継続して実施する。
- (2) 横須賀・三浦ブロック活動参加
近隣支部との合同練習に積極的に参加する。
- (3) 関東学生OB連合会活動参加
懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。
- (4) 校内活動
OBの部活動・練習参加に加え、OB自身の技術向上を図り、積極的に指導を実施する。

2 部の活動予定

部誌中「平成 20 年度年間活動計画」参照

3 活動に当たっての重点事項

- (1) 新入部員獲得に重点的な支援を行う。(金銭支援、勧誘活動支援)
- (2) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。
- (3) 防大勤務OBの増加を要望する。
- (4) 期連絡網については、メールの活用を含め、連絡体制の効率化・迅速化を図る。

平成 21 年度奥平会予算計画

1 収入について

12 年度以来、OB・OGの皆様の暖かいご援助により約 2 ヶ年分の活動費(約 1 4 0 万円)を上回る額を確保することができるようになり、18 年度をもって、特別会費の徴収を見合わせた予算となったことは 33 号(平成 18 年度版)でも申し述べたとおりです。

当面の間、20 年度以降も卒業時の一時金による予算によりまかなうことになっております。因みに現在の部員数は、3 学年 9 名、2 学年 15 名、1 学年 13 名となっており、21 年度以降も終身OB会費による運営が可能です。今後も奥平会の本来の形式であった終身OB会費(卒業時の学生手当の 1/2)による運営を追求して行きます。

2 支出について

21 年度も、大きな事業は予定されていません。会誌印刷の外注化継続経費を含め、恒常的な支出は今年度並となります。

3 21 年度予算計画について

収 入		支 出	
前年度繰越金	¥2,086,114	各種大会支援	¥160,000
OB 会費	¥800,000	合宿支援	¥15,000
特別会費	¥0	学生活動支援	¥60,000
利息	¥20,000	技術向上支援	¥200,000
小計	¥2,906,114	奥平会運営費	¥250,000
総計	¥2,906,114	総計	¥685,000
残高（収入－支出）			¥2,221,114

4 来年度以降の見通し

奥平会の運営経費は年間約 70 万円を必要としております。既にご承知の通り、収入は当該年度の卒業生の終身OB会費（5.3 万円／人）によって賄われております。当面は終身OB会費による運営が可能です。

なお、菅野部長からいただきましたご厚志（部旗代）につきましては、部旗の制作費に充てますが前述のように作成要領が本山から示され次第、使用させていただく予定であり、進行状況については総会において毎年ご報告させていただきます。

別紙第 6

全自衛隊支部の活動紹介

全自支部事務局

【紹介の趣旨】

奥平会の会員におかれましては、防大卒業時に少林寺拳法の修行を止めてしまった方、勤務の都合で練習したくてもやめざるを得なかった方、勤務地の中で全自衛隊連盟支部として活動している方、一般の道院・支部に通って活動している方等、いろいろおられると思います。中には活動をしたくても、転属をする度に手続きの煩雑さから、活動を躊躇している方もおられると思います。

そのような状況の中で、自衛隊員の活動を容易にし、自衛隊の中での少林寺拳法の活動を活発化する目的で、全自衛隊連盟の一支部として、全自衛隊支部が設立されたところ です。

下記の内容を読んでいただければ、その活動状況はご理解いただけると思いますが、比較的軽易に少林寺拳法の活動が可能になりましたので、奥平会会員の皆様も是非又道着の袖に腕を通していただきたく、この場を借りて紹介させていただきます。

1 設立の趣旨

各拳士が全国どこの自衛隊勤務地においても少林寺拳法の練習ができるように設立されたものであり、もって自衛隊の少林寺拳法の活発化を図るものである。全自衛隊支部に所属する場合の具体的な例として、

- (1) 部長が転勤及び退職等により、やむなく廃止や休止せざるを得なくなった少林寺拳法部員の活動継続する場合
- (2) 拳士が転勤等により、少林寺拳法部がない勤務地に異動して活動継続する場合
- (3) 拳士が頻繁な転勤等により、その都度、各少林寺拳法部への転籍ができない場合
- (4) その他、拳士の活動継続が困難な場合

2 活動の状況

- (1) 支部長：禅林学園 出口 潔（防大24期・1等空佐）
- (2) 事務局（事務担当者）：支部長兼務
同（会誌担当者）：米山多佳志（防大27期・2等陸佐）
同 同 上：相良 達也（防大26期・2等海佐）
- (3) 支部員：支部長以下25名(21.4.1現在)
(防大少林寺拳法部出身者：8名)
- (4) 所在地：山口地方協力本部(原則として事務担当者の所属場所)
- (5) 支部員の活動場所：22カ所
- (6) 会費 当面、年会費10,000円を徴収
(入部、転籍の際、別途、身分証明書代500円、袖章代500円が必要)

3 入部及び活動要領

- (1) 入 部
ア 入部資格
全国の自衛隊拳士を対象とするが、原則として、
(ア) 少林寺拳法部を有しない自衛隊駐屯地等において勤務する拳士及びその家族とする。(当面の間、有段者のみ)
(イ) 所属道院支部道場を有しない自衛隊OB拳士も対象とする。
イ 入部要領
入部を希望する者は、会費(1万円)及び転籍諸経費(1000円)を添えて入部届又は転籍届(写真2枚含む)を事務局(出口宛)に提出し、入部の承認を得る。
- (2) 修練場所
原則として、各駐屯地等の施設を活用した修練とする。但し、駐屯地等の近隣に位置する道院支部での修練は、道院支部等の所属長に当部の活動趣旨について理解を求め、参加許可を受けて行う。
- (3) 支部の事務処理(事務局)
空自・出口潔を副支部長兼ねて事務局(事務担当)とし、事務局を山口地方協力本部

長室に設置する。(20.8.1以降、現在まで)

原則として、事務局の所在場所は出口拳士の所属する勤務基地等とし、転属等により、その都度、所在場所を変更する可能性がある。

(4) 定期連絡

各部員は各自の活動状況について支部長(事務局気付)に定期報告する。また事務局は毎月の参座報告等を通じて、定期的に部員の活動場所を連盟本部に報告する。

また部員の転勤等によって活動場所が変更になった場合は、速やかに事務局に報告する。各拳士からの連絡手段:電話、メール又はFAX等で実施。

(5) 部 費

ア 部員の部費は、年間10,000円(暫定・年間個人登録費を含む)とする。

イ 部費は毎年2月末までに徴収する。

(6) 会報少林寺拳法の配布

原則として連盟本部から事務局に一括送付し、可能な限り、年間数回に分けて部員に配布する。

(7) その他

当面の間、部員については有段者のみとする。新入門者及び級拳士は、昇級審査等の関連より、既存の全自連盟の少林寺拳法部所属としてもらいたい。

4 入部及び問い合わせ先

〒753-0092

山口県山口市八万馬場814

山口地方協力本部 本部長 1等空佐 出口潔

TEL: 083-922-2325 (内370)

専用線: 8-836-370

E-mail: k-deguchi@topaz.plala.or.jp (自宅)

別紙第7

防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則

(名称組織)

第1条 本会は、防衛大学校少林寺拳法部奥平会(以下「奥平会」という。)と称し、防衛大学校少林寺拳法部(以下「少林寺拳法部」という。)に卒業時所属していた者及び一時所属していた卒業生で入会を希望する者をもって組織する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図ること、少林寺拳法部の発展向上に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員相互の融和団結の促進
 - ア 総会の開催
 - イ 部隊等における支部の設立と活動に対する支援
 - ウ 会員の慶弔に関すること
 - (ア) 結婚 . . . 祝電
 - (イ) 死亡 . . . 花輪、弔電
- (3) 会員の修業の便を図ること
- (4) 少林寺拳法部への支援
 - ア 合宿
 - イ 関東、全日本、その他の大会
 - ウ OB杯大会
- (5) 学生OB連合会及び他大学OB会との連携・交流
- (6) その他、本会の目的を達成するため会長が必要と認める事項

(経費)

第4条 本会の経費は、会員より徴収する会費及び寄付等の支援金によるものとする。

(会費)

第5条 20期以前の会員は一律5000円、21期以降の会員は卒業時における学生手当の2分の1（1000円未満切捨て）を終身会費として納入するものとする。なお、一旦納入した会費は返還しない。

(特別会費)

第6条 前条に定めるほか、特別の出費を要するときには、総会の承認を得て会員から特別会費を徴収する。

(本部)

第7条 本会の本部は、防衛大学校（少林寺拳法部）内に置く。

(名誉会員)

第8条 会長は、次に掲げる者を総会に諮り名誉会員にすることができる。

- (1) 防衛大学校長
- (2) 少林寺拳法部の部長、師範、顧問及びその経験者
- (3) その他、少林寺拳法部の発展に功績のあった者

(役員)

第9条 本会の役員は、会員のうちから選出する。役員任期は1年とし、再任を妨げない。

2 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名

(3) 幹事 本校在職会員

(4) 会計監査委員 1名

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、名誉会員との連絡調整にあたる。

2 会長は、会員の中から副会長、幹事、会計監査委員を任命する。

3 会長は、5年任期とし、次期会長の任期に当たった当該自衛官会員の先任者等の推薦によって選考するものとし、当該期会長任期満了までに総会の承認を得るものとする。

4 会長は、陸海空自衛官会員の持ち回りを原則とするが、当該要員に適当な候補者がいない場合は他の要員から選考する。但し、同じ要員から連続して選考しないものとする。

(副会長)

第11条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき之を代行する。

2 会長は、防大及び市ヶ谷駐屯地等の会員の中で、それぞれ適任と思われる者から副会長を任命する。また、必要によりこれを免ずることができる。

3 状況により、会長は副会長を置かないことができる。

(幹事)

第12条 幹事は、会長、副会長を補佐し、会務を処理する。

2 会長は、防大に勤務する会員を総員幹事に任命する。

(会計監査委員)

第13条 会計監査委員は、年度末及び臨時に会の会計を監査し、会長及び会員に報告する。

2 会計監査委員は、防大の幹事以外の会員の中から会長が任命する。

(運営)

第14条 本会は、総会の決議に基づいて運営する。但し、急を要する事項、若しくは軽易な事項は、会長が役員会に諮って決することができる。

(総会)

第15条 総会は、原則として年1回会長が召集する。但し、必要と認めたときは、臨時に召集することができる。

2 会長は、総会の召集にあたり、副会長に委任することができる。

3 総会は、会員15名をもって成立する。但し(5名)をこえない範囲で委任状による手続きによることを妨げない。

4 総会の議長は、会長がこれに充たるものとする。

5 総会の議事は、出席した会員のうち過半数以上の賛同により、成立するものとする。

(会務)

第16条 本会の会務を円満に処理するため、会長は幹事の中から書記4名を選任する。

2 書記は、総括、庶務、会計及び広報に分掌して処理する。

- 3 総括担当書記は、会務運営を企画し、会務全般を総括する。
 - (1) 会長等と密接に連絡を取り、会長の意向を会務全般に反映する。
 - (2) 年度の活動成果報告を作成して、総会に報告する。
 - (3) 次年度の活動計画を作成して、総会の承認を得る。
 - (4) 庶務、会計及び広報担当書記の会務を統制・調整し、会務の円滑な運営を図る。
 - (5) 状況により、他の担当書記の会務を兼務することができる。
- 4 庶務担当書記は、主に庶務事項に関して会務を分掌する。
 - (1) 学生OB連合会、他大学OB会等のOB会組織並びに(財)少林寺拳法連盟、神奈川県少林寺拳法連盟、全自衛隊少林寺拳法連盟等の連盟組織との連携を図るとともに、必要な処置を行う。
 - (2) 役員名簿を作成する。
- 5 会計担当書記は、会費を管理し、主に会計事項に関して会務を分掌する。
 - (1) 会費を徴収する。
 - (2) 会費納入名簿を作成する。
 - (3) 会費未納者に対し、会費の納入を促す。
 - (4) 毎会計年度終了後、特別会費を徴収した場合はその都度、決算報告を作成し総会の承認を得る。
- 6 広報担当書記は、主に広報事項に関して会務を分掌する。
 - (1) 少林寺拳法部と連携して、試合日程、合宿等を会員に知らせ、会員の応援を促す等、会員に対する適宜の情報提供を図る。
 - (2) 少林寺拳法部と連携して、年1回会報を作成し、各担当書記が作成する会の活動計画・成果、決算報告、総会議事録、名簿及び部の状況等を会員に知らせる。
 - (3) 会員名簿を作成する。

(会計)

第17条 本会の会計年度は、1月1日に始まり12月末日をもって終わる。

- 2 本会所管の会費は、確実なる金融機関(防衛庁共済組合を含む)へ預け入れるものとする。

(会費の使途)

第18条 本会の会費は、次のことにより使途するものとする。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員の慶弔に関すること
- (3) 少林寺拳法部への支援
- (4) 会員等によるOB会活動等への参加支援
- (5) 会員の大会出場(全国大会レベル)への参加支援
- (6) 会長が、副会長及び幹事等の役員に諮り、奥平会、少林寺拳法部の円滑なる運営上必要と認めた事項

(期連絡網)

- 第19条** 本会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理するため、各期に1名の期連絡担当者を置き、会員及び本部との間に期連絡網を整備する。
- 2 期連絡担当者の選出は、各期毎確実に連絡の取れる会員（電子メールアドレス所持者等）を選出するものとし、交代の際には速やかに本部（広報担当書記）に連絡するものとする。
- 3 会員は、住所・所属等に変更があった場合、毎年11月1日までに同期生の期連絡担当者を通じて、変更事項を本部（広報担当書記）に連絡するものとする。
- 4 その他、会員の慶弔に関する事項については、期連絡担当者或いは各会員が直接本部（広報担当書記）に連絡するものとする。

(退会)

- 第20条** 会員で退会しようとする者は、会長に申し出るものとする。

(規則の改正)

- 第21条** 本会の規則は、総会によって変更することができる。
- 2 前項の場合、出席会員の3分の2以上の賛同を得なければならない。

附則：この会則は、平成21年2月14日から施行する。

別紙第8

奥平会名誉会員名簿

(21.4.1 現在)

職名	氏名	現所属及び役職	連絡先
部長	高橋 信明	通信工学科 教授	〒236-0045 横浜市金沢区釜利谷南 3-16-16 TEL 045-784-2339
先生	神田 憲和	三多摩副道院長 准範士6段	〒164-0003 中野区東中野 2-14-7 TEL 03-3363-6275
先生	頼富 英武	少工校顧問 准範士6段	〒238-0315 横須賀市林 5-6-11 TEL 0468-56-7663
顧問	有賀 敦	機能材料工学科 講師	〒239-0814 横須賀市二葉 1-55 A-202 TEL 0468-44-0264
元部長	菅野 等		〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 6丁目 34番 1-411 TEL 045-786-5877
元顧問 (OB 以外)	奥平 正人 (奥平会名誉会長)		〒828-0044 豊前市小石原 392-3 TEL 0979-82-2287

奥平会員名簿

(平成 21 年 3 月 1 日現在)



凡例：●印については期担当連絡員のご連絡等により判明した異動者

編集後記

54期 庶務係 八島 勝

合掌

青葉に風薫るころとなりましたが、先輩の皆様にはいよいよご健勝のこととお喜び申し上げます。現在の少林寺拳法部は更なる向上、活性化を目指して日々修練している次第です。

昨年度の成績といたしましては、全日本学生大会において、わが部の誇る団体演武は最優秀賞を受賞しました。また、関東学生大会では男子段外の部において優秀賞、運用法において最優秀、男子単独有段において敢闘賞を受賞し、他の大会におきましても、数々の賞を受賞することができました。これもひとえに、諸先輩の方々の築かれた伝統によるところであると思っております。

私ども54期も下級生と共に日々自己研鑽に励み、政権(幹部)を中心として全部員が部に「誇り」をもち「最後の砦」となりつづけるよう修練に励んでいく所存でありますので、先輩の皆様におかれましても、ますますのご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今回部誌を作成するに当り、ご協力・ご指導をいただきました部長、監督を始めとする関係者の方々に厚く御礼を申し上げます、編集後記とさせていただきます。

結手